

6月の星空

うしかい座の1等星アルクトゥールスには「さみだればし」という和名がある。アルクトゥールスが宵空高く輝くこの時季は雨や曇りのことが多いが、チャンスを逃さずに星々を眺めたい。アルクトゥールスの北には北斗七星、南にはおとめ座の1等星スピカが見え、これらをつなぐと天に架かる「春の大曲線」が描ける。東の空には「夏の大三角」も見え始めている。

宵の明星の金星は今月もあまり高くないが、夕方に西北西の低空で輝く様子はよく目立つ。12日に三日月と大接近する現象は楽しみだ。また、金星の左上のほうには火星も見える。2等級まで暗くなり目立たないが、双眼鏡を向けてかに座のプレセペ星団と並ぶ様子を観察してみよう。

2021年6月10日 金環日食(カナダ・北極海・ロシア)

6月10日、カナダ北東部から北極海、ロシア北東部で金環日食が見られる。これに伴い、北米・ヨーロッパ・ロシア・中央アジアでも部分日食が見られるが、日本ではまったく見られない。

金環食となるのは日本時間では19時ごろで、継続時間は最長で3分50秒ほどだ(観測地がカナダの金環食帯の場合)。中継で見たい場合には時間をよく把握しておこう。



2021年6月12日 細い月と金星が大接近

6月12日の夕方から宵、西北西の低空で月齢2の細い月と金星が大接近して見える。

地球照を伴った幻想的な細い月と金星の共演は、数ある月と惑星の接近の中でも随一の美しさだ。とくに今回は間隔が2度未満と非常に近づくので、いっそう印象的な光景となる。肉眼や双眼鏡で眺めたり、写真に収めたりしてみよう。日の入り1時間30分後には金星が沈んでしまうので、なるべく早い時間帯に、西北西の低空が開けたところで観察しよう。次回の共演は7月12日。

